

平成28年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業・スタート助成)

NO	事業名	団体名	評価コメント
1	「カレーを食べる会」事業	五番街ふれあいセンター	<p>【会長】 この活動は「月一回カレーを食べる」という単純な取組ですが、奥が深いと実感しています。食を媒介にすると、人はこのようにつながりを築けるものかと、感心しています。その経験知を参考に他の同様の活動が生まれたことは喜ばしいです。 災害時の安否確認および支援活動を担うことになったのは、地域の期待が高まっているとの証左だと思いますが、貴団体の体力を大切に、息の長い活動となるようにしてください。</p> <p>【委員】 「カレー」をツールに地域をつなぐ当該活動の意義は大きい。なぜ「カレー」かという疑問もあるだろうが、とにかく地域をつなぐ「絆」づくりは大切である。これからは、カレーの素材に地元の食材を使って頂くことを推進すれば「地産地消」という意味でも、さらに当該活動のすばらしさは増すだろう。 今後も続けて頂きたい活動である。</p> <p>【委員】 高齢者の見守り事業にもつながる、すばらしい事業です。1年間の参加者792人(延べ)は立派です。メニューも、副菜、デザートも付いていて、バランスが良いと思います。このすばらしい事業の事例発表の機会を増やし、広がっていくことを期待します。</p> <p>【委員】 市内の15地区社会福祉協議会でも、高齢者の会食会やサロンを展開しているが、高齢者の安否確認や見守りにもつながるこの事業は重要であり、他地域の人々へ「場を設定・立ち上げる」動きへの応援ともなる。</p> <p>【委員】 この事業の学ぶべきことは、事前出欠確認作業を見守り活動と位置づけ、手順を決めて実施している点です。 月に1度50名の参加者とカレー会食を開催することは、メニューも充実させて工夫し、労力のいることと思います。また、誕生会、食後の懇談で信頼関係ができ、困りごとの相談も受けて関係機関につなぐことができることが成果です。</p> <p>【委員】 この事業は毎月1回同じマンションに住む75歳以上の方達に呼びかけて、一緒にカレーを食べるというシンプルな事業です。しかし、その事業を進めていく中で、現代の高齢者の多くが抱えている問題を解決する糸口が見えてきます。月1回の開催の為に何度も声掛けをすることで、特に一人暮らしの高齢者の現状を把握することができ、孤独死という事態が回避されます。また報告書にもありました様に、何度か参加することで他の人との会話が生まれ、生活に張り合いが生まれ、場合によっては抱えている問題を相談することで解決に至ることもあり得ます。実際にそんなケースもあった様で、今後は十分に対応できる体制を築いて頂ければと思います。この先の課題として助成金が無くてもこの事業を維持していくことですが、現在のメンバーの熱い思いがあれば十分に可能ではないかと思えます。</p> <p>【委員】 毎月毎月の活動に頭が下がります。周辺の見学が増えているとのこと、ぜひ水平展開が広がることを期待します。</p> <p>【委員】 誕生会を始めるなどマンネリ化を避ける工夫もあり、事業目的が順調に達成され、課題解決の成果が上がっています。この活動が近隣地域へも波及しつつあるようなので、ノウハウの伝達など連携強化を期待します。なお、何らかの理由で会に参加していない高齢者に対しては、疎外感を与えないような配慮をお願いします。</p> <p>【委員】 利用・参加をしやすい工夫がなされており、敷居が低く参加率が非常に高いことが評価できる。また、毎月継続的に行われ、運営形態や方法にも工夫がなされており、このような事業のモデルとなりえる。カレーをみんなで食べるという非常に参加しやすい入口から、生活面での相談まで受けられるようにいい形で内容が膨らんでいる。この事業は一つのマンションで行われており、ある意味で同じような状況の方々が多く、その特性にあったものである。他の地区などでも、状況や環境に合わせた工夫により同種の事業が進む可能性があり、素晴らしい事業である。</p>
2	「認知症に備える」為の啓発活動事業	介護・認知症の家族と歩む会・松戸	<p>【会長】 3種類の講座を組み合せながら数多くの講座をきめ細かく実施され、認知症に係る関心と理解が市民へ浸透したと評価します。併せて、聖徳大学の授業の一環に組み込まれたことは、従来の受講者とは違う層に広がりを持つ機会となったと思います。 当初の計画に対する未達の部分は貴団体の活動を伸ばしていく際の課題となりますが、その課題解決を地域のいろいろな団体や人たちの協力を以て取り組むようにするのが、認知症の問題に地域を巻き込むきっかけになると考えます。</p> <p>【委員】 「『放送大学』の取材を受けた」とあるが、今後もその知名度を活かして継続できる予感がある。こうした事例は稀であることから、松戸市としても大きく取り上げてほしい。また、当該団体でもHPや様々なところで広報(宣伝)活動をし、地域における「信頼」を勝ち獲ってほしい。これからも頑張ってもらいたい。</p> <p>【委員】 認知症について、正しい情報を伝えること、支援者を増やす努力をされている点が優れている。手賀沼の写真を撮りに行く三世代交流事業、地域シンボルとして、地域資源を生かしている点が良い。頑張ってください。</p> <p>【委員】 この事業の必要性は益々高まることが予想させる。様々な研修で着実に力をつけ、聖徳大学との連携が出来たことは大きな成果。人々の不安を和らげ、明るい、安心につながる生活へとつながる手法をとってほしい。</p> <p>【委員】 講座や交流会、相談会を地域に出かけて、細かく計画し実施できたことはスタート助成としては、大きな成果です。また、様々な経験をもつ仲間と出会えたことで相談の受け止めや交流に幅がでると思われしますので、今後の広がりに期待します。</p> <p>【委員】 「認知症」という言葉は毎日のようにテレビ、新聞、雑誌で見かけるようになりました。決定的な治療法がないことにより、現実をサポートしている人は疲れ果て、多くの方が将来に不安を抱えているのが現状です。そんな中で認知症講座と相談会、おしゃべり広場などのワークショップにより、少しでも不安を抱えている人に対応をしていくこの事業は大変有意義ではないかと思えます。講座39回、交流会11回、相談会20回、おしゃべり広場7回の開催実績は大いに評価できます。有益な情報が普及すれば認知症に対する漠然とした不安も解消していくのではないのでしょうか。特におしゃべり広場の運営は、気軽に立ち寄ることが出来るイメージがあり、今後期待が持てそうです。</p> <p>【委員】 認知症の認知といった困難な課題を抱えながらもねばり強く頑張っておられる様子がよくわかりました。今後の活動にもおおいに期待します。</p> <p>【委員】 高齢になれば誰でも可能性がある認知症です。図らずも認知症になった本人以上に、その介護をする家族の苦勞・悩みは想像を絶するものがあります。その認知症に備えるための啓発活動は有意義なものです。相談会・交流会・おしゃべり広場の定例化・常設化が実現できると良いのですが。</p> <p>【委員】 市民の関心も非常に高い内容であり、実際に直面している方々も多いので、有意義な事業である。なかなか相談する場所や相談できる方が少なく、この事業の講座を通して相談されるケースも多いようで、事業の広がりも期待される。相談や手伝いをお願いしたい反面、近所などにはあまり知られたくないと悩んでいる方が多く、相談先や専門機関の紹介などもありがたい。だれでも気軽に参加しやすい工夫や専門家などによる適格な講演内容など、今後も継続されることを期待する。</p>

平成28年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業・スタート助成)

NO	事業名	団体名	評価コメント
3	健常児・障がい児ミックス型共育を楽しむ事業	共育ステーション 地球の家	<p>【会長】 イベントの内容と進行が「左脳(知識)から入るのではなく右脳(直感)から入る」と言えるもので、事業の目的である健常児と障がい児の共育への共感を醸し出したと評価します。まつど市民活動サポートセンター、フクロウの朗読会と連携が取れたことをきっかけに、貴団体が目指す子育ての姿を他の団体に伝え、連携する接点をつくりながら活動を展開されていくことを期待します。</p> <p>【委員】 当該助成事業を通じて、松戸市内の他団体とつながっていったというのは、今後の課題解決のために大きな財産となるだろう。当該団体そのものの意義はもちろん、ネットワーク構築の中心的な担い手になるようなことも期待できよう。地域福祉の中で、重要な役割を果たしていることについても感謝申し上げたい。「共育」の効果が楽しみである。</p> <p>【委員】 すばらしい事業だと思いますが、パンフレット600部を出来るだけ目につく場所に置けると、より広がりが出てくると思います。保育園・幼稚園・特別支援等の、先生方、保護者の方々に広がると良いと思います。</p> <p>【委員】 福祉の充実している状況・環境とは、様々な障がいのある人と、ない人たちが自然に交流する場が多いことだと思っている。さらなるご活動を期待している。</p> <p>【委員】 生活の場である地域が閉鎖的な状況であることから、このような共育の場を設置することでお互いの理解が深まり、豊かなコミュニティを育むことにつながると思います。あきらめることなく、さらに継続した活動に期待します。</p> <p>【委員】 障がいを抱えた子どもが育つ理想的な環境は、周りの大人や子どもが偏見を持たないで接してくれる環境ではないでしょうか。しかし、理屈では分かっているにもかかわらずなかなか実現できないことも事実です。この事業は健常児と障がい児を同じイベントに参加をさせ、楽しみながらお互いの心が通じ合う場を提供することにより、自然に偏見をなくすことを目指している様です。年5回開催されたイベントの内容は多彩であり、動員数もまずまずの成果を達成出来ましたので評価できる結果と考えます。報告書にも書いてあるように、直ぐには結果が出るものではなく、長く続けていく中で、多くの大人達、子ども達が障がい児と自然に向き合える環境が実現できると思います。また障がい児もその中で刺激を受けながら育っていくことが出来るのでしょうか。今後とも継続していくことを望みます。</p> <p>【委員】 地道な活動ですが、小さくてもいいから続けて活動されることを期待します。大きな目標にこだわらず、少しずつ輪をひろげ若い方に受け継がれる活動になるといいですね。</p> <p>【委員】 各種のイベントを通じ、楽しみながら自然な形で健常児・障がい児の交流が図られています。また、多様なツールを使ったイベントのPR活動は、他の団体の参考になると思われます。</p> <p>【委員】 案内にもあるように、小学校までは学校の行事などを通して健常児と障がい児がふれあう機会があるが、中学校やそれ以降は少なくなるとのことであり、なかなか難しい面を感じる。イベントの企画も分け隔てなく参加を募っていくことは有意義ではあるが、なかなか参加する方は多くないようである。イベントなどの企画・内容そのものに魅力・興味が見出せないとなかなか拡大はむずかしいのではないかと思われ、その中で自然な交流の結びつきにつながればと考える。理想と現実の調和のもと継続的な活動に期待する。</p>
4	子どもと高齢者の交流事業	子どもの未来を考える会	<p>【会長】 「あそびのひろば」が子どもたちの楽しい場になるように、いろいろと工夫を凝らした催事であったと思います。その「あそびのひろば」運営に高齢者ボランティアが活躍できる場面があり、本事業の狙いである「子どもと高齢者の交流」が実現できたと評価します。貴団体が目指している子どもの日常的な居場所づくりに関しては、大人の思惑どおりにいかない難しさがありますが、貴団体だけでなく子ども関連やシニア関連の他団体などと連携し、夏休みや春休みの催事と違う場の設えを企画されることを期待します。</p> <p>【委員】 世代間交流を行う当該活動は、本市の未来にとって、非常に重要なものであると考える。「核家族」となっている今日の家族では、地域の高齢者がその知恵を伝え、子どもたちを育てるという旧来の日本の伝統が失われつつあるからである。子どもも近年はゲームなどの影響で外へ出ないことも多いといわれている。その意味でも、大いに子どもを外に出すイベントを実施してほしい。そして、高齢者の大いなる刺激にも子どもたちはなる。期待できる活動である。</p> <p>【委員】 三世代交流が自然に行われている点が、すばらしいと思います。参加者の子ども達が誘い合って遊びに来ているのか、子どもとの交流(一人で参加)への気遣い、配慮が良く分かった。</p> <p>【委員】 大事な事業である。ただ高齢者をボランティアとした位置づけが気になる。どんな子どもも、どんな高齢者も、ともに過ごすことのできる場が多くある社会をめざしたい。さらなるご活動を期待している。</p> <p>【委員】 学校でもない、家庭でもない第3の居場所として高齢者ボランティアが様々なあそびや学びを提供する場を日常的に開催しているからこそ、このイベントの意義があると思う。子どもたちの日頃の変化や様子を気に留める見守り活動としても役割を広げていただきたい。</p> <p>【委員】 年2回開催された遊びの広場には合計171名の子どもが参加してくれたことで、大きな成果が得られたと思います。その人数の子ども達を迎え入れる為にはスタッフもある程度の数が必要で、その中に高齢者のボランティアを加えることにより、高齢者と子ども達との交流が生まれるというよく考えられた事業だと思います。ただ、子ども達にとってはせっかくの楽しみの場も年2回では少ない様で、小規模でも良いからイベントの回数を増やすことも検討していただければと思います。報告によればイベントで色々な小学校の子ども達が集まっているようで、子ども同士の交流にも十分役立っている様です。</p> <p>【委員】 小さくてもいいから定期的に開催し、ルーティン化すると、口コミで広がっていくと思います。</p> <p>【委員】 「こみかのあそびのひろば」が地域に定着しつつあり、子どもにも高齢者にも喜ばれていることは大いに評価できます。今後は、夏休み・春休み間の数日間のイベントだけでなく、日常的な交流事業への発展も期待します。</p> <p>【委員】 子どもたちの居場所や遊び場が少なくなり、共働き世帯が多い中で困っている実態に則した取り組みとして素晴らしい。参加者も大変多く、また、スタッフも多くの方が携わっており高齢者と子どもの両面で工夫をこらしてうまく組み立てられている。学校との連携もうまくとっており、夏休みの過ごし方などでは効果が大きく、また、注意を要する子どもへの気配りなども重要である。市内のどこの地域でも取り組める事業であり、広がるとともに継続されることを期待する。</p>

平成28年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業・スタート助成)

NO	事業名	団体名	評価コメント
5	公共サインの改善で松戸の街並みをレベルアップする事業	都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会	<p>【会長】 学生が提案した市民活動がどのような成果を得るのか、楽しみにしていました。成果発表からアクションリサーチ系市民活動の萌芽を感じた次第です。「今よりもっと住みやすい松戸を実現する」の共通認識にメンバーが至ったことは大きな一歩だと評価します。 「公共サイン」は行政が取り扱うものと思いがちですが、「公共サイン」は「みんなのサイン」という本来の意味に立脚し、「今よりもっと住みやすい松戸を実現する公共サイン」の認識を多くの市民と共有し、まちづくりや観光に係る団体、障害者や子育てを支える団体など他の活動とのつながりを築きながら活動を展開されることを期待します。</p> <p>【委員】 専門性が高く、今後は市都市計画課との協働事業も期待できよう。その際、市民にこれまで以上に当該団体がいかに開かれているかである。「開放型」へと進化していけば、三鷹市で総合計画を市民中心で作っていったような理想的な中たちも実現できる。松戸市の市民のもつ専門性をさらに集約して、市の都市計画などのまちづくりの起爆剤となってほしい。</p> <p>【委員】 すばらしい調査なので、実際に看板・サインを変える力になると良いと思います。すばらしい講演会なので、参加者が増えるように連携していることを、もっと活かして、人数を増加するように努力してほしい。</p> <p>【委員】 たしかに、もっと洗練された、ユニークな統一感のある公共サインであってほしい。それにより、松戸の街の外観がレベルアップし、行政も市民も何かと頑張れるような雰囲気になると嬉しい。今後、市の担当部署等との連携をもち、実現へつなげてほしい。</p> <p>【委員】 この事業は、調査、事例調査、取りまとめのみであれば学生としての課題研究・本業とみなされるものである。提案には、調査したことや事例調査したことについて市民と共有、意見交換する講演会を開催するとあり、市民活動助成事業としてふさわしいと採択された。その点ではもう少し開催告知方法や参加者募集にこだわってほしかったです。</p> <p>【委員】 今回の事業では松戸市内の現状調査と、サイン計画が進んでいる事例としての横浜市の報告がありました。松戸市の現状はサインが混乱していて必ずしも整備が進んでいないということは認識していました。問題は、それをどの様な形に変えていくのかということとあり、最終的には松戸市を巻き込んでいかなければ実現に至らない内容です。大学の1研究室としてある程度の限界があると思いますが、自分達の中で最終的な目標を見定め、それに向けて若者らしい発想でエネルギーに活動をしていただければと思います。2020年の東京オリンピックを視野に入れるのであれば、理想的なサインのデザインを提案していただき、実施に向けての起爆剤となれば望ましい形なのですが。</p> <p>【委員】 皆さんの研究成果に期待します。松戸市の都市計画課は当然としても、県土木(東葛土木)事務所や国土交通省(首都国道)事務所も相談が必要。2020年に間に合わせたいです。</p> <p>【委員】 公共サインの改善というハードルの高い課題に果敢に取り組んでいると思います。メンバー全員が学生さんということですが、こうした市民活動は貴重な経験になると思います。市民向け講演会の参加者が、目標40名に対し6名に止まった点についても、その原因を分析し次回に活かしてほしいと思います。</p> <p>【委員】 学生を中心に調査・研究が進められており、若い世代の視点による都市空間の創造は期待が大きい。現在、バラバラに設置された公共サインや看板の整理や機能性の向上などの研究は有意義である。できれば具現化の方策や取り組みにも踏み込んでもらいたいが、学生であり、継続性は難しいのかとも考える。</p>
6	認知症を吹き飛ばせ！健康寿命を延ばそう事業	介護予防と認知症サポートの会「しゃぼん玉倶楽部」	<p>【会長】 事業計画にあった出張型介護予防教室が思うように進まなかったことを受けて、現実的なやり方に替えた点は、PDCA(立案→実行→点検→見直し)に則した行為で、活動を柔軟に見直し改善したと思います。この姿勢が貴団体の活動にとって大切なものだと思います。併せて、町会、民生委員、児童委員、高齢者相談協力員とつながったことは、貴団体の活動が地域で浸透していく際の心強い応援者になると期待できます。</p> <p>【委員】 介護予防・認知症予防サポートは、1つのこれからの超高齢社会時代への対処策として期待できる。介護予防という観点では、さらに子どもとの交流も視野に入れながら活動すれば、さらに当該活動が活きるような気がする。世代間交流を含めた多角的な視野を広げるためには、他団体との交流や協働も肝要である。これからも市内の活動団体との協働を意識して活動して頂きたい。</p> <p>【委員】 地元密着型で、介護予防と認知症サポートとして優れた事業を行っている所がとても良い。市内外の高齢者支援団体と、ネットワークを広げる努力していただきたい。期待しています。頑張ってください。</p> <p>【委員】 町会長や民生・児童委員、高齢者支援・相談協力員からも協力を得られたことは大きな成果であり、継続してほしい。</p> <p>【委員】 イベントの集客に苦労があったようですが、町会長、民生委員、高齢者相談協力員の力も借りられ、今後の活動の場をつくることができよい成果でした。自宅サロンの開催などは、多人数を対象とせず少人数でコミュニケーションできることがよいと思います。</p> <p>【委員】 今回の報告会に参加した団体で、同じテーマで参加をした団体があるくらい認知症は日常の大きな問題になっています。その取り組み方も様々で、この事業では地域密着型として六高台、六実地区を対象に活動をしている様です。講演会、勉強会、予防教室、イベントと多彩な活動を通じて地域に浸透を図ろうとしている姿勢は、大変評価で出来ます。実際身内に認知症患者が発生した場合、身近にこのような活動団体が存在していれば、大変心強く感じるのではないのでしょうか。先に述べたように、認知症に取り組む団体が多くあるようですので、横の連携も心掛けていただければと思います。</p> <p>【委員】 地元密着で情報をとり易い反面、情報が出てきにくい面もあるでしょう。しゃぼん玉がこわれないう協働していきましょう。</p> <p>【委員】 介護予防教室を、出張型から同一会場でのイベント開催型に変更したのは賢明な判断だったと思います。認知症の方、その介護をする方のサポートは大切なことですが、認知症を予防するという発想も同じくらい重要です。高齢者いきいき安心センター(地域包括支援センター)等とも連携しながら、地域密着型の活動を期待します。</p> <p>【委員】 取り組まれている内容やコンセプトとは、まさに現状の介護保険法のサービス内容と、それを利用する方々や少し手前の方々をつなぐ有意義な取り組みである。比較的小規模での事業運営であるが、ある意味では地域に密着した事業展開であり、参加のしやすさという面では良さが感じられる。事業運営が個人に頼っているように感じられるので、組織立った運営により安定かつ継続性を期待する。</p>

平成28年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業・スタート助成)

NO	事業名	団体名	評価コメント
7	医療・介護・福祉を学ぶ会事業	千葉県 東葛介護・福祉塾	<p>【会長】 医療、介護、福祉の領域に係る講座を多様な主題により毎月1回開催し、参加者の満足が高かったことは、貴団体の企画力および実施力が素晴らしかった証しだと思います。本事業で医療職や介護職、一般市民の会員が22人増えたこと、加えて傾聴ボランティア1人と介護施設ボランティア3人が生まれ、認知症カフェ開催を検討する人が1人出できたことは、大きな実績だと評価します。加えて、総合病院相談員と地域ケアマネージャーの業務連携に至り、医療職と介護職をつなげる「多職種連携」の芽が出たと思います。</p> <p>【委員】 医師会などにつながったり、非常に専門的な活動がなされている。「新会員の14名が医療・介護職ではない市民の方」とあったり、まったく知識のない方々の教育効果も期待できることが伺える。せっかく市の助成金を用いているのであるから、市との連携をいっそう進めて頂くことが望ましい。そうすれば、貴団体だけでできなかったことが可能になるのではないだろうか。</p> <p>【委員】 優れた事業だと思いますが、市民向け、企業向けとした点が、少し成果が上がりにくいと思いました。異業種交流であれば、ロータリークラブ(市内5クラブ)の卓話等でPRしたら良いのではないかと思います。</p> <p>【委員】 毎月開催の講演会等は成果があったと思っているが、目的が、医療・介護職の方の事業拡大等が主であったのかと思える。「私自身のネットワーク…云々」の表現にも違和感がある。会員64名も有しているながら助成終了後は、「仕事との両立が…云々で、一旦活動を休止する」ことの表明は残念。ただ「市民会員の交流」が発展し、介護・福祉環境への関心が高まることに期待する。</p> <p>【委員】 現役世代が主催する「学ぶ会」は、時間的な制限等もある中での活動となったと思われるが、計画通りに講演会も開催でき、会員も増えたことは課題解決につながったと言える。テーマとして「他職種連携」を挙げているが、地域にとっても重要なことであり継続した活動に期待する。</p> <p>【委員】 月1回のペースで高齢者の健康、生活などに役立つ情報を基にした講演会を開催したことは、大変有意義な活動だと思います。講師もそのテーマに合った方を選び、恐らく参加した人にとって大変為になる話が聞けた場になったと思います。毎月の開催を、仕事をしながら運営することは大変なエネルギーが必要かと思いますが、結果として今回の事業で一旦活動を休止するのは惜しまれます。また、体勢を立て直して再開されることを望みます。</p> <p>【委員】 お金もかけずよくやったと思います。自分たちができることを小さいことでもいいから続けていってほしいものです。</p> <p>【委員】 各会のテーマは良かったにもかかわらず、諸般の事情により、参加者数が目標を下回ったことは残念です。ただし、この会をきっかけに、参加者同士の新たな交流や活動につながった点は大いに評価できます。</p> <p>【委員】 医療・介護・福祉と幅広く取り組んでおり、講演や勉強会が主体の事業であり、多様性に富んでいる。テーマごとの関連性や受講対象者の選定など、考え方、目標がわからない面がある。勉強会的な意味合いが強く、実態にどのように結びついていくのか、また、そうした方向なのかは不明である。</p>